

Hem21 NEWS

公益財団法人
ひょうご震災記念21世紀研究機構
ニュース

「Hem21」は、ひょうご震災記念21世紀研究機構の英語表記である
Hyogo Earthquake Memorial 21st Century Research Instituteの略称です。

VOL. **63** 平成29年 (2017) 5月

CONTENTS

- 1 ひょうご震災記念21世紀研究機構「研究戦略センター」発足記念シンポジウム「災害多発時代を生きる～21世紀の安全・安心な社会をめざして」を開催
- 2 平成28年度の研究成果について
- 3 兵庫県音楽療法士認定証交付式・記念講演会・実践活動発表会を開催
- 4 平成29年度事業計画、平成29年度の研究テーマ
- 5 HAT神戸掲示板
- 6～8 人と防災未来センター Mirai

管理部

研究戦略センター

人と防災未来センター

「こころのケアセンター」

公益財団法人ひょうご震災記念21世紀研究機構は今年4月、相互に関連する研究調査と学術交流の両事業の連携強化を図るために組織を再編し、研究と発信に関する事業を一体的に展開する「研究戦略センター」を新たに設置しました。

4月25日(火)には神戸市中央区の兵庫県公館において、同センターの発足を記念したシンポジウムを開催し、約350人が参加しました。

記念講演

御厨貴研究戦略センター長が、「災害を前提とした政治や社会を考える」と題して記念講演を行いました。

御厨センター長は、まず「『安全・安心』という言葉は、古くから使われていたわけではない。1970年代に入って初めて『公害』が意識されたが、その頃はまだ、自然災害も公害問題も科学技術が進歩すれば必ず克服されると考えられていた。それが戦後50年を迎えた平成7(1995)年に阪神・淡路大震災、地下鉄サリン事件が起こり、これまで信じられていた安全・安心論がターニングポイントを迎えた」と歴史的に振り返りました。

その上で「今は、自然災害も人災も、予測していたとしても事態は突然勃発し、予測になかった事態へと展開するという状況になってきた。私は災害が起きた後の時代を『災後の時代』と呼んでいる。平成は、昭和に比べてはるかに災害が多く起こっている。今一番やらなければならないのは、これまで災害に遭った地域の政治行政の知恵を拝借することである」との認識を述べました。

そして、「皆さんと一緒に考えながら、災後の比較を行い、実践知を編み出し、21世紀研究機構が多面体のように行っているさまざまな活動の一つの太い幹にして全国発信・全国展開していきたい」と今後の展望を語りました。

パネルディスカッション

五百旗頭真理事長をコーディネーターに、「災害

ひょうご震災記念21世紀研究機構「研究戦略センター」発足記念シンポジウム「災害多発時代を生きる～21世紀の安全・安心な社会をめざして」を開催



多発時代を生きる～21世紀の安全・安心な社会をめざして」と題してパネルディスカッションを行いました。

まず、河田恵昭人と防災未来センター長が、「人と防災未来センターは、実効性の高い対策につなげることに寄与している。東日本大震災の被災県が災害ミュージアム建設に消極的なこともあり、当センターがナショナルミュージアムとして果たす役割は大きい。県立大学大学院の減災復興政策研究科とも共同研究をしていかなければならない」と述べました。

加藤寛こころのケアセンター長は、「『こころのケア』は、阪神・淡路大震災以降に普及した言葉である。自然災害、犯罪や人災の被害者、被災者に対する支援が社会に広く認知されたことにより、診療所も併設して当センターが設置された。自然災害やJR福知山線列車事故の現地にスタッフを派遣し、さまざまな支援の可能性を考えてきた。『こころのケア』はこの20年で非常に大きな広がりを見せ、法整備が進み、多様なサポートシステムもできた。私たちはこの広がりをさらに普及させる活動をしたい」と述べました。

室崎益輝県立大学大学院減災復興政策研究科長は、「恩返しと経験・教訓を伝承する『被災地責任』を常に意識している。防災の人材には、世界中の優れた経験を運ぶ『風の人』、現地サイドから専門的なアプローチをする『水の人』、市民やNPO、コミュニティに根差した『土の人』の3種類が必要。今の人材養成は、『水の人』が欠けている。そうした『水の人』を育てる場が減災復興政策研究科だ。アセスメント、コミュニケーション、マネジメント、ガバナンスの4つを

重要キーワードとして掲げ、素晴らしいものにしていきたい」と述べました。

重川希志依常葉大学大学院環境防災研究科長は、「求められる防災教育とは、①被災者とならない人を育てる ②率先リーダーとなれる人を育てる ③賢い被災者になる ④知識体系を構築できる人材を育てるということである。防災には『いのちを守る』『暮らしをつなぐ』『再建・復興』という3つの目的があり、それを実行するには『自然現象の理解』『被害の抑止』『被害の軽減』

という3つの手法がある。今の日本の防災は、公平さが不公平さを生んでいる。本来は公助でしっかりと支援すべき人たちは誰なのかという声を伝えていかなければならない」と述べました。

シンポジウムの最後に、五百旗頭理事長が、「地震活性期を迎え、事前対処にはできる限りの土台準備が必要。そのために、兵庫の地が極めて重要な任務を背負っているという自覚の下で頑張っていきたい」と総括しました。

平成28年度の研究成果について

● 研究テーマと担当研究員

東日本大震災復興の総合的検証～次なる大災害に備える～ (平成28～30年度研究)

担当：紅谷 昇平 主任研究員、高森 順子 研究員

東日本大震災の「集中復興期間」における実態分析、および復興への取り組みの総合的評価を行うため、研究プロジェクト初年度は復興庁委託事業「東日本大震災の復興状況に関する調査事業」を中心に据え、東北被災3県と6市町に対してヒアリング調査を行い、主に行政側による復興への取り組みの実態調査を進めた。



南海トラフ地震に対する復興のグランドデザインと事前復興計画のあり方 (平成28～29年度研究)

担当：磯村 和樹 研究員

南海トラフ地震の被災が想定される地域における復興グランドデザイン、およびその実現のための具体的な取り組みや手順等を示した事前復興計画のあり方について政策提言を行うために、初年度である平成28年度は東日本大震災の復興の課題を抽出し、21世紀後半の地域像の検討を行った。



人口減少、少子・高齢化社会におけるライフスタイルと社会保障のあり方 について～地域におけるクオリティ・オブ・ライフの実現に向けて～ (平成27～28年度研究)

担当：米川 安寿 研究員

人口減少、少子・高齢化社会において、寿命の増加と合わせて健康な高齢者が増加していることを真正面から見つめ、より正確な現状認識から分析を行い、介護・医療・資産活用、高齢者の労働から外国人活用、都市のあり方まで幅広く、あるべき制度について政策提言を行った。



平成28年度ひょうご震災記念21世紀研究機構 研究成果報告会のご案内

当機構は、兵庫県のシンクタンクとして阪神・淡路大震災の経験と教訓を踏まえて再認識された「安全・安心なまちづくり」と「共生社会の実現」に向けた調査研究を進め、政策提言を行っています。

このたび、平成28年度の研究成果の一つである「少子・高齢化社会におけるライフスタイルと社会保障のあり方」をテーマに意見交換を行う報告会を下記の通り開催しますので、ぜひご参加ください。

報告会

日 時：平成29年7月7日(金) 13:30～16:30
場 所：ラッセホール(神戸市中央区中山手通4-10-8)
定 員：120人(先着順)
報 告：報告「人口減少、少子・高齢化社会におけるライフスタイルと社会保障のあり方」
講師：阿部 茂行(同志社大学政策学部教授)
パネルディスカッション
テーマ「少子・高齢化社会におけるライフスタイルと社会保障のあり方」
申し込み：研究戦略センター研究調査課 TEL 078-262-5570

平成
28年度

兵庫県音楽療法士認定証交付式・ 記念講演会・実践活動発表会を開催

3月15日(水)、「平成28年度兵庫県音楽療法士認定証交付式・記念講演会・実践活動発表会」が、兵庫県こころのケアセンターで開催されました。

新規認定者13人に兵庫県から認定証が交付されるとともに、米国認定音楽療法士の北脇歩氏、兵庫県健康福祉部参事(認知症対策担当)の柿木達也氏、日本音楽療学会認定音楽療法士の後藤浩子氏の3人による記念講演会、新規認定者の実践活動発表が行われ、音楽療法を実践中の病院や高齢者・障害者福祉施設等の職員、音楽療法士、音楽療法団体関係者など約130人が参加しました。



井戸知事から認定証を交付される平成28年度認定者代表

式典では、井戸敏三兵庫県知事から新規認定者に「兵庫県音楽療法士認定証」が交付されました。井戸知事は、現場での音楽療法士としての

活躍を期待するとともに、『音楽を通じて行く ケアには 高度な技術と 高い志』という歌を詠まれ、現場での音楽療法の実践に尽力願いたいと、激励の言葉を贈られました。

また、藤本百男兵庫県議会副議長から「東北被災地での復興支援活動が続いている兵庫県音楽療法士の皆さんに敬意を表します。医療・福祉の現場では、その効果を体験されている所も多いと聞いている。音楽療法のさらなる定着に向けて、県議会としても応援していきたい」と祝辞が述べられました。

続いて、兵庫県音楽療法士認定審査会を代表して、司馬良一委員長が「申請者15人について、知識・技術・適性の観点から厳正な審査を行い、13人を合格と判定した。これから『対象は人間』という世界に入る。これまで学んだことを生かし、対象者の方の尊厳を守り、倫理性をわきまえて、喜んでいただける音楽療法の提供を願っている。これからも研鑽を積んで、さらに上を目指してほしい」と、審査講評を行いました。

次に「音楽はこころを呼びさます～映画『パーソナル・ソング』から～」と題して、認知症の人が音楽によって人生の喜びを再び取り戻していく姿を描いたアメリカのドキ

ュメンタリー映画について、一部上映を挟みながら意見交換が行われました。3人の講師による解説を織り交ぜての話は、大変興味深く、新規認定者はもとより、参加者にとっても意義深いものとなりました。

後藤氏による認知症介護の体験談を交えた進行の中、北脇氏は「どんな音楽を、どのタイミングで、どのリズムで提供するのか、的確に判断するためには、対象者をしっかりとアセスメントすること。認知症の方にも質問の仕方を工夫することで、その人の好きな歌を聞き出すことができる。自己決定力を高めてあげることが大事である」、また、柿木氏は「認知症の人は記憶がなくなっているのではない。薬は進行を遅らせるが、脳への刺激を与え、取り出す操作をすることが必要。薬と身体活動が一体となってこそ効果が表れる。音楽はその力になるのではないか」と語られました。最後に北脇氏のギター伴奏に合わせて、参加者全員で『故郷』を合唱しました。



講演会の様子。左から、北脇氏、柿木氏、後藤氏

兵庫県音楽療法士

音楽療法とは、「音楽のもつ生理的、心理的、社会的働きを用いて、心身の障害の軽減回復、機能の維持改善、生活の質の向上、行動の変容などに向けて、音楽を意図的、計画的に使用すること」をいいます。

兵庫県では平成11年度に音楽療法士養成事業を開始し、13年度から県独自の「兵庫県音楽療法士」の認定を行っており、29年3月までに365人を認定。養成講座は、当機構の兵庫県こころのケアセンターが実施しています。

あった、あった、こころ。
えらい大きい会社やなあ、ドキドキしてきたわ。
あかん、鎮まれ心臓
営業マンに弱気は禁物、最初が肝心や。

初めて出会った
人と人との
つながり。
それが、
わたしたちのしごとです。

「はじめまして。カワサキと申します」
名刺を交換したらお付き合いの始まり。
小さな紙片からどれだけ仕事広がるか、
さあ、ガンバルぞお～！

平成29年度事業計画

1 基本方針

阪神・淡路大震災以降、地震活性期に入った日本列島。東日本大震災、昨年の熊本、鳥取と頻発する地震。気候変動により国内外で多発・激化する風水害。南海トラフ地震や首都直下地震など次なる巨大災害への備えがさまざまな分野で求められている。

こうした中、当機構においても設立から10年を経て蓄積してきた知見や全国的ネットワークを生かしつつ、兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科などHAT神戸に集積する研究機関はもとより全国の多彩な研究機関、研究者等との連携を図り、先導的な研究を戦略的にコーディネートするため「研究戦略センター」を新たに設置し、ミュージアム機能を併せ持つ研究機関「人と防災未来センター」、成熟社会に不可欠な「こころのケアセンター」と並ぶ3センター体制の下、研究・発信力の強化に取り組む。

2 主な取り組み

(1) 研究戦略センター事業

研究戦略センターは、設立から10年を経て蓄積してきた知見や全国的ネットワークを生かしつつ、先導的な研究を戦略的にコーディネートするとともに、研究調査と学術交流の2つの機能を一体的に発揮し、引き続き東日本大震災復興の総合的検証を行うなど、国難ともなる巨大災害への備えに資する「安全安心なまちづくり」に関する研究を重点的に進める。さらには、高齢化と人口減少社会による社会構造の変化を踏まえつつ、「共生社会の実現」に関する研究に取り組み、県との連携を強化しながら、効果的な政策研究、提言を行う。

得られた研究成果をはじめ機構のさまざまな活動を、研究成果報告会や多様な媒体の活用により広く情報発信するとともに、県内外の研究者や研究機関とのネットワークを生かしたシンポジウム等をマスメディアと連携して開催することにより、全国に向けて積極的に発信する。

また、高度な学習機会を提供する連続講座の開催やアジア・太平洋の大学間の学術交流の推進など、知的交流基盤の充実に取り組む。

(2) 人と防災未来センター管理運営事業

人と防災未来センターは、阪神・淡路大震災の経験を語り継ぎ、その教訓を未来に生かすことを通じて、災害文化の形成、地域防災力の向上、防災政策の開発支援を図り、減災

社会の実現に貢献していくため、平成14年4月に兵庫県が国の支援を得て設置した。

阪神・淡路大震災に関する資料の収集・保存、展示のほか、実践的な防災研究や防災を担う人材の育成、災害対応の現地支援、多様なネットワークを通じた国内外の防災関係者との連携などの取り組みを総合的、一体的に推進している。

今後、南海トラフ地震、首都直下地震等の国難となる災害の発生も懸念されており、これまでの災害の教訓を生かし伝えていくことが求められていることから、新たに南海トラフ地震に係る展示の充実を図るほか、東日本大震災を踏まえた研究調査の継続、内閣府の防災スペシャリスト養成研修と連携し、全国さらには全世界への防災・減災情報の発信拠点として、引き続き各機能の充実を図る。

夜間ライトアップを活用したイベントや防災訓練を通じて、HAT神戸のにぎわいの創出や地域交流に取り組むとともに、首都圏など県外での巡回展示を行い、阪神・淡路大震災の経験と教訓、災害への備えについて広く発信する。

(3) こころのケアセンター管理運営事業

こころのケアセンターは、阪神・淡路大震災を契機に取り組み蓄積されてきたトラウマ・PTSDなど「こころのケア」に関する貴重な経験や実績を基に、「こころのケア」に関する多様な機能を持つ全国初の拠点施設として、平成16年4月に兵庫県が国の支援を得て設置した。

「こころのケア」に関する研究調査をはじめ、研修、相談・診療、情報発信・普及啓発、連携・交流活動等を総合的、一体的に推進している。

災害派遣体制整備を図るため、兵庫県版災害派遣精神医療チーム(ひょうごDPAT)に対する研修などを実施するとともに、熊本地震や東日本大震災の被災地などへの地域支援活動を継続するほか、子どもの「こころのケア」に対する診療・研究体制などの強化を引き続き推進する。

(4) 外部評価事業

機構の中期目標・中期計画を効果的かつ効率的に達成し県民に対する社会的責任を果たすため、研究調査およびその他の事業についての自己点検評価結果を基に、外部の有識者等による評価を行う。

評価結果については、その内容をホームページ等により公表するとともに、機構の業務運営に反映していく。

平成29年度の研究テーマ

当機構では、研究戦略センターと人と防災未来センター、こころのケアセンターの各研究部で研究調査活動を行っており、平成29年度は次の内容の研究に取り組みます。

1 研究戦略センター

- ・地域コミュニティの防災力向上に関する研究
(政策コーディネーター 渥美 公秀)
- ・東日本大震災復興の総合的検証～次なる大災害に備える～
(研究戦略センター長 御厨 貴)
- ・南海トラフ地震に対する復興のグランドデザインと事前復興計画のあり方
(政策コーディネーター 牧 紀男)
- ・少子高齢化社会の制度設計～年齢で人生を区別しない社会並びに子どもを生み育てやすい社会の実現に向けて～
(政策コーディネーター 阿部 茂行)
- ・ネット社会において地域全体で青少年を守り育てる環境整備のあり方【県要請テーマ】
- ・女性が活躍する社会づくりのための環境整備のあり方【県要請テーマ】
- ・持続可能なコミュニティ形成に向けた地域資源の活用方策【県要請テーマ】

2 人と防災未来センター

(重点研究領域)

- ・災害初期における人的・社会的対応の最適化
- ・広域災害に向けた組織関連方策の高度化
- ・広域社会の復旧・復興戦略の構築

3 こころのケアセンター

- ・大規模災害が子どもの心に与える影響のアセスメントシステムに関する研究
- ・大規模交通災害が心身の健康に及ぼす長期的な影響に関する研究
- ・労働者の職業性ストレス、特にハラスメント行為が心身の健康に与える影響の検討
- ・災害救援組織における惨事ストレスおよびメンタルヘルス対策のこれまでとこれから
- ・災害後の精神保健医療分野における外部支援の受援に関する研究
- ・トラウマインフォームド・ケアに関する文献的考察
- ・発達障害児者におけるトラウマ臨床の実態についての調査研究～心理臨床の専門家を対象とした質問紙調査～

兵庫県立美術館

特別展「ベルギー奇想の系譜展 ポスからマグリット、ヤン・ファールブルまで」

ベルギーに生まれた「奇想」の表現を、15、16世紀のフランドル絵画から現代のコンテンポラリー・アートまで国内外のコレクションによって紹介します。ヒエロニムス・ボスやブリューゲルに始まり、ジェームズ・アンソール、ルネ・マグリットらの時代を経て、そして現代のヤン・ファールブルや若手の作家に至る、およそ500年の「奇想」の系譜をたどります。地獄の世界や死のイメージといった教訓を含んだテーマを、時には恐ろしく、また時にはユーモアたっぷりに表した作品群は、幅広い年齢層の方々に楽しんでいただくことができます。



ヒエロニムス・ボス工房《トゥヌグダリスの幻視》
1490-1500年頃
ラサロ・ガルディアノ財団蔵
©Fundación Lázaro Galdiano

■会期＝5月20日(土)～7月9日(日)
■観覧料＝一般1,500円、大学生1,100円、70歳以上750円、高校生以下無料

県美プレミアムI

《特集》「Out of Real —「リアル」からの創造／脱却」

本展は当館のコレクションを「アウト・オブ・リアル」というキーワードで展覧します。現実・社会に生きるものの自覚を基に、自らの作品に生命を息づかせる作家たちにとっての「リアル」の意味内容を問いかけます。版画、油彩、写真、彫刻等、多岐にわたる素材・技法を用いた約120点の作品群をご覧ください。



澤田知子《ID400》(部分)
1998年

■会期＝6月25日(日)まで
■観覧料＝一般500円、大学生400円、70歳以上250円、高校生以下無料

◎休館日＝月曜
◎開館時間＝10時～18時(特別展開催中の金曜・土曜は20時まで)
※入場は閉館の30分前まで
TEL 078-262-0901(代) <http://www.artm.pref.hyogo.jp/>

JICA関西

◆食べることから始める国際協力! JICA関西食堂の月替りエスニック料理

JICA関西1階の食堂(カフェテリア方式)は、どなたでもご利用できます。完全禁煙で、安心して料理を楽しめ、子供椅子もご用意していますので、お子様連れも歓迎です。大好評の月替りエスニック料理の6月はウガンダ料理です!ぜひ、お気軽にお立寄りください。



写真は5月のメキシコ料理

メニューの詳細と写真については、
こちら→ <http://www.jica.go.jp/kansai/office/restaurant/index.html>
■営業時間＝(昼)11時半から14時まで
(夜)17時半から21時まで
※各終了30分前ラストオーダー
※年中無休(年末年始を除く)

◎問い合わせ
JICA関西(独立行政法人国際協力機構関西国際センター)市民参加協力課
TEL 078-261-0384 FAX 078-261-0357
Eメール jicaksic-event@jica.go.jp
その他、詳細はJICA関西ホームページをチェック!
→ <http://www.jica.go.jp/kansai/>

日本赤十字社 兵庫県支部

活動資金にご協力をお願いします ー日本赤十字社は創立140周年を迎えますー

戦時救護から始まり、現在に至るまで苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、皆さまのいのちと健康を守るさまざまな事業や活動を行ってきました。

昨年は、熊本地震や鳥取県中部地震をはじめとする多くの自然災害に見舞われ、被災された方々の巡回診療や健康管理に努めました。



赤十字レッドライトアッププロジェクト
(協力:人と防災未来センター)

日本赤十字社兵庫県支部災害救護支援センター 4月17日に運用開始!!



大規模災害などに備え、阪神・淡路大震災や東日本大震災の経験や教訓を生かした全国各地の被災地に対する支援や、全国からの受援の拠点となる施設を兵庫県広域防災センター敷地内(三木市)に開設しました。

日本赤十字社の活動は、皆さまからの寄付で支えられています。いただいた資金は、東日本大震災や熊本地震、鳥取県中部地震で被災された方々の支援をはじめ、今後起こり得る災害への備えなど、皆さまのいのちと健康を守る活動に生かしています。

■ご協力方法(郵便局・ゆうちょ銀行の場合)
口座記号番号 01110-0-1136
口座加入者名 日本赤十字社兵庫県支部
※窓口で取り扱いの場合、振込手数料は無料です

◎問い合わせ
TEL 078-241-8921

兵庫県知事選挙

投票日 7月2日(日)

【期日前投票のできる期間】6月16日(金)～7月1日(土)

「平成29年度研究方針会議」を開催しました

当センターで実施する平成29(2017)年度の研究内容を決める研究方針会議を、5月16日(火)に東館6階会議室で開催しました。センター長、副センター長、上級研究員、研究員が一堂に会し、研究の進め方や内容等に関する研究部からの発表に基づき意見交換等を行いました。

特に、平成29年度は、27(2015)年度から3カ年で実施してきた中核的研究プロジェクトの最終年になることや、昨今の災害の頻発化・激甚化、南海トラフを震源とする巨大地震の切迫性が高まっていることなどから、さらなるマクロ的視点に立った研究の重要性や、これまでのデータや研究成果の蓄積の手法などについての議論も展開されました。

なお、会議の結果、本年度の研究内容は以下の通りとなりました。



【中核的研究プロジェクト】

広域巨大災害における組織間連携方策のあり方に関する研究

【特定研究プロジェクト】

- ①「地方自治体の災害対応の要諦」の改訂
- ②自治体と防衛省・自衛隊との効果的な災害時連携に向けた研究:自治体防災部局における退職自衛官の在職・活用状況に注目して
- ③図上訓練を用いた危機対応研修に関する研究
- ④災害の記憶を伝える場の保存とそれらを用いた記憶継承に関する研究
- ⑤災害時ケアプラン作成のための様式開発と人材育成研修の設計

「震災資料のメッセージ」を展示しています

「震災資料のメッセージ」は、当センターに寄贈された一次資料(震災当時に被災したり、使用されたりした現物)を、年度ごとのテーマに沿って紹介するスポット展示の企画です。

本年度は、「想いのかたち」をテーマとしました。震災後、残された人々は、さまざまなものに亡くなった人々への想いや祈りを託しました。その在り方を震災資料から振り返ります。期間は平成29(2017)年5月30日(火)から平成30(2018)年5月27日(日)まで。展示場所は西館3階(有料ゾーン)です。

第1期 <5月30日(火)～11月26日(日)>は「工藤純さんのワープロ」を展示します。ワープロは、当時神戸大学の大学院生だった工藤純さんが使われていたもので、震災後、下宿先だった神戸市東灘区の木造アパートから取り出されました。アパートは全壊し、純さんは19日に遺体で発見されます。捜索作業をする自衛隊員から「一つだけなら遺品を取り出せます」と言われ、取り出されたワープロです。現在は壊れ、電源は入りません。



展示資料：工藤純さんのワープロ

第2期 <11月28日(火)～平成30(2018)年5月27日(日)>は「亡妻が大切にしていたが震災でこわれた観音像」を展示します。「震災当日の朝、タンスは倒れずにすみましたが、多くのものが割れました。その一つが、震災前に亡くなった妻が神戸そごうの展示会で購入した観音像です。食器棚の上に飾っていましたが、落下して無残にも手足が飛び散ってしまいました」。奥さまが大変気に入っていたものなので、捨てることができず、保管されてきたものです。



展示資料：亡妻が大切にしていたが震災でこわれた観音像

「くらしと震災学習ノート」を作成しました

資料室では、地震や気象災害について学ぶ教材「災害学習ノート」を作成し、配布しています。以前に資料室内で配布していた子ども向けワークシートをまとめ、平成25(2013)年に発行した冊子で、修学旅行や社会科見学の事前学習を中心に広く活用されています。最近では小学校だけでなく、中学校や高校の修学旅行、地域の自主防災会の研修旅行などでの利用が増えてきたこともあり、この度、新しい教材「くらしと震災学習ノート」を作成し、配布を始めました。

くらしと震災学習ノートは、阪神・淡路大震災のみを詳しく取り上げ、地震の仕組みから復興へと向かう過程を暮らしに沿ってまとめています。当センター所蔵の写真資料やモノ資料もたくさん紹介し、それらを通して当時のこと、震災について考えるものです。

ビクト調のイラストや写真をたくさん入れ、中学生以上で習う漢字にはルビを付けています。各項目に設けたクイズは、解答をノートに書き込む形になっています。自身の暮らしと震災について文章を考える設問、巻末にはメモページがあり、自分のノートを作ることができる教材です。ぜひ、事前・事後学習に利用してください。

* 当センターのホームページでPDFファイルを公開しています

http://www.dri.ne.jp/material/material_studies



【「くらしと震災学習ノート」(A4判・12ページ)の内容】

- くらしと震災／人と防災未来センターの震災資料
- 地震の発生
- 地震に備える
- 被災地の生活
- 仮住まい
- 活力を取り戻す
- ぼくのわたしのくらしと災害(自由記述欄)
- 阪神・淡路大震災の被害



※「くらしと震災学習ノート」「災害学習ノート」は、資料室で配布しています

※配布は、原則として来館者、来館予定者(事前学習)に限ります。その他のご利用は、当センターホームページ上のPDFファイルをプリントアウトしてください

(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構

阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2

観覧案内・予約／TEL 078-262-5050 <http://www.dri.ne.jp/>

開館時間

9時30分～17時30分(入館は16時30分まで)
※7月～9月は9時30分～18時(入館は17時まで)
※金曜、土曜は9時30分～19時(入館は18時まで)

入館料金

大人	大学生	高校生／小・中学生
600円(450円)	450円(350円)	無料
[障がい者]		
大人	大学生	高校生／小・中学生
300円(100円)	200円(50円)	無料
[70歳以上の高齢者] 300円(200円)		

※()は20人以上の団体料金

※毎月17日(休館日の場合は翌18日)は入館無料

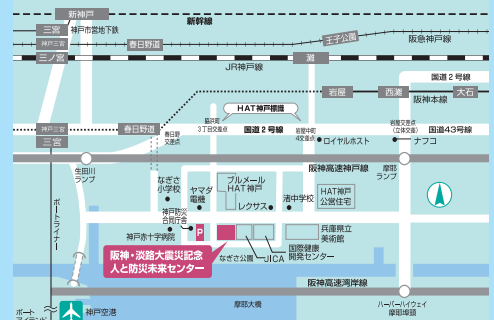
休館日

毎週月曜(月曜が祝日の場合は翌平日)、12月31日と1月1日
※ゴールデンウィーク期間中(4月29日から5月5日まで)は無休
※資料室の開室日についてはホームページでご確認ください

交通

- 鉄道**
- ・阪神電鉄「岩屋」駅、「春日野道」駅から徒歩約10分
 - ・JR「灘」駅南口から徒歩12分
 - ・阪急電鉄「王子公園」駅西口から徒歩約20分
- バス**
- ・三宮駅から約15分
- 車**
- ・阪神高速道路神戸線「生田川」ランプから約8分
 - ・阪神高速道路神戸線「摩耶」ランプから約4分
 - ・阪急・阪神・JR「三宮」駅から約10分

●有料駐車場あり ●バス待機所(予約制／無料)あり



新任資料専門員を紹介します

4月から震災資料専門員として着任しました、成田千尋です。初めまして。昨年度まで京都大学大学院文学研究科で、復帰前後の沖縄の状況や、沖縄返還をめぐる東アジアの国際関係について研究していました。現在も同じテーマについて博士論文を執筆中ですが、小学1年生の時に神戸市西区で阪神・淡路大震災を経験しているため、神戸の被災・復興過程についてもきちんと知っておきたいという思いがあり、資料室で勤務させていただくことになりました。

神戸に戻るの6年ぶり、業務の中で被災時の写真などを多く目にしたり、センターのボランティアの方からお話を伺ったりして、改めて震災がこの地域に与えた影響の大きさを実感しています。センターには多くの方から寄贈していただいた膨大な量の資料が所蔵されているので、これらをいかに活用し、今後のために役立てるかということが大きな課題だと思っています。

阪神・淡路大震災から20年余りという歳月は、震災を「歴史」として捉えるには少し短いように思われますが、経験者の方が多くいらっしゃる今だからこそ、できることもあると感じています。各地で災害が多発する現在、阪神・淡路大震災の経験をどのように生かせるのかということを念頭に置き、寄贈者の方の思いを大切にするとともに、利用者の方の視点にも立って、資料室での業務に取り組んでいく所存です。どうぞよろしくお願いいたします。



トピックス

●企画展「地震サイエンス2017～地震の観測・研究 最前線～」を開催中

阪神・淡路大震災以降、地震の観測・研究は進歩を続けており、その成果は広く防災情報へと応用されつつあります。この企画展では、科学の分野で関係機関が



どのようなことに取り組んでいるのかを具体的に紹介しています。初めて見るものや、初めて知ることを通じて、地震観測・研究の最前線を知り、防災や減災の必要性を改めて考える契機としていただければと思います。

＜期間＞7月2日(日)まで

＜場所＞西館2階 防災未来ギャラリー(有料ゾーン)

●夜間ライトアップ実施中

西館の夜間ライトアップを、月ごとにカラーテーマを設定して実施しています。ご来館の際や、お近くにお立ち寄りの際にぜひご覧ください。

●南海トラフ巨大地震想定津波高の懸垂幕を設置

南海トラフ巨大地震に関して、日本で最大の想定津波高(高知県黒潮町34.4m)や津波被害が想定される府県の府県庁所在地等13市の想定津波高とともに内閣府「南海トラフの巨大地震モデル検討会」発表(H24.3.31)に基づく表示した懸垂幕をそれぞれ西館東面外壁と1階ロビーに設置しました。



●高校生の入館料無料

平成29(2017)年4月から、高校生の入館料が無料になりました。防災・減災学習の場として、より多くの生徒さんの利用をお待ちしています。

●毎月17日は入館料無料

当センターは、今年開館から15周年を迎えました。阪神・淡路大震災から20年余りが経過し、記憶の風化が懸念される中、より多くの方々に震災の経験と教訓に基づいた防災情報と「減災活動の日」への理解を深めていただくため、今年1月から、毎月17日(休館日の場合は翌日)の入館料が無料となっています。この機会をぜひご活用ください。



Hem21NEWS
vol.63

平成29年5月発行

(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構
〒651-0073
神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2(人と防災未来センター)
<http://www.hemri21.jp/>

当機構は、以下の組織で構成しています。

●管理部

TEL 078-262-5580
FAX 078-262-5587

●研究戦略センター

▶研究調査部

TEL 078-262-5570
FAX 078-262-5593

●人と防災未来センター

TEL 078-262-5050
FAX 078-262-5055

▶学術交流部

TEL 078-262-5713
FAX 078-262-5122

●こころのケアセンター

〒651-0073
神戸市中央区脇浜海岸通1-3-2
TEL 078-200-3010
FAX 078-200-3017

ニュースレターに関するご意見・
ご感想を機構までお寄せください